

# 野菜・花きの営農情報

《 8月中旬～9月中旬の技術対策 》

令和5年8月17日発行  
第4号  
空知農業改良普及センター本所  
Tel：0126-23-2900  
Fax：0126-22-2838

## 【全作物共通】

- ① 各種病害虫が発生しやすい時期となります。高温多湿条件では、病害の進行や害虫の生育ステージが早まります。発生初期を見逃さないためには、ほ場観察が大切です。
- ② 農薬散布前には最新の登録内容を確認しましょう。また、農薬使用基準を守り、薬害や他作物への飛散に注意しましょう。
- ③ 適期収穫と選別の徹底に努め、出荷物の品質を維持しましょう。
- ④ 台風や大雨に備え、周囲の排水対策やハウスバンドの締め直しなどに留意して下さい。
- ⑤ 気温が平年よりも低いことが予想される日は、ハウス内の気温が生育適温を下回らないように、ハウスを閉める時間を早めるなどして夜温を確保します。また、ハウスを締め切ったままにすると、多湿により灰色かび病などの病害が発生するため、必ず朝1回は大きく換気し、モヤ抜きを行いましょう。
- ⑥ 収穫後は有機物の施用など土づくり、ほ場環境の整備に努めましょう。

## 【野菜（果菜類）】

作物名	今後の留意事項・対応技術	病害虫・生理障害対策
ミニトマト	<p>・5月上旬定植「キャロル10」では、8月15日現在、生長点付近の茎葉伸長は緩慢ですが、第10～11花房の開花期となっています。高温により果実の着色は進んでおり、第4～6花房の収穫が進んでいます。</p> <p><b>【管理のポイント】</b></p> <p>・着果負担が大きく「なり疲れ」による草勢の低下、高温時のかん水や追肥不足による草勢の低下が見られます。かん水はマルチ下の土壤水分を確認し、少量多回数とします。</p> <p>・9月以降は夜温が低くなり、果実の成熟に日数を要します（開花から収穫まで50日以上必要）。収穫打ち切り時期を考慮し、8月20日頃を目処に主枝を摘心しましょう。</p> <p>・夜温が低下する時期は、裂果が発生しやすくなります。土壤水分やハウス内湿度の変化を小さくしましょう。低温時は保温に努め、かん水を控えましょう。</p>	<p>・花卉や葉先枯れ部分から、灰色かび病が発生、「キャロル10」では斑点病が発生しています。 （いずれも少発生）</p> <p>・古い花卉、収穫が終わった花房下の葉、葉先枯れ症状の葉、病葉を早めに除去し、病害の予防に努めましょう。</p> <p>・換気による除湿、定期的な防除に努めましょう。</p>  <p>古い花卉から発生した灰色かび病</p>
きゅうり	<p>・今後は気温の低下に伴い、側枝の発生が緩やかになります。</p> <p>・整枝は、半放任で強い摘心を避け、摘葉を中心とした管理で草勢維持に努めましょう。また、雌花の着生していない側枝は早めに除去し、繁茂しないようにしましょう。</p>	<p>・べと病やハダニ類の発生が見られます。発生状況に留意し適期に防除しましょう。</p>

作物名	今後の留意事項・対応技術	病害虫・生理障害対策
かぼちゃ	<ul style="list-style-type: none"> <li>肥大に必要な養分を確保するため、葉を健全に保ちましょう。</li> <li>収穫の目安は花梗部にひびが入り、果皮の表面が堅くなってからです。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>果実に直射日光が当たることで「日焼け果」になります。</li> <li>葉を健全に保つためにうどんこ病の防除を徹底しましょう。</li> </ul>  <p style="text-align: center;">日焼け果</p>
夏秋いちご	<ul style="list-style-type: none"> <li>日中の温度が 25℃以上にならないよう、循環扇、遮光資材等を活用しましょう。</li> <li>いちごは、乾燥や過湿に弱い作物なので、朝の葉つゆの状況を見ながらかん水を行きましょう。また、排液のEC値を参考に給液管理を行きましょう。</li> <li>秋の収穫盛期を迎えるために摘果・摘花を行うと共に追肥を適切に行い、成り疲れによる草勢の低下に注意しましょう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>花卉の落ちが悪いと、そこから灰色かび病の発生につながります。薬剤防除のほか、こまめな換気などの耕種的防除も行いましょう。</li> <li>アザミウマ類、ハダニ類の適切な防除対策を行きましょう。特に、アザミウマ類は果実被害が発生するため、粘着板を活用し初期防除を行きましょう。</li> <li>シクラメンホコリダニの発生に注意し、初期防除を行きましょう。</li> </ul>  <p style="text-align: center;">アザミウマ類</p>

### 【野菜（葉茎菜類）】

作物名	今後の留意事項・対応技術	病害虫・生理障害対策
たまねぎ	<ul style="list-style-type: none"> <li>粗選別は機械の処理速度を抑え、発病球が混入しないように慎重に選別しましょう。</li> <li>収穫が終了したほ場では、排水対策や後作緑肥による土壌のメンテナンスに努めましょう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>貯蔵腐敗病の防除を重点的に行い、品質低下を抑えましょう。</li> </ul>
アスパラガス	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏芽の収穫が中盤となり、収穫終わりまで、約1ヶ月となりました。</li> <li>水分不足は夏芽及び翌年の春芽の収量低下、穂先の開き、曲がりの原因になります。かん水は適切に行いましょう。</li> <li>うねの表面は、常に湿った状態とします。うねの表面が白く乾いたらかん水しましょう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ツマグロアオカスミカメ、ヨトウムシ、アザミウマ類など害虫は気温が高い場合、発生が多くなります。ほ場をよく観察し、適期に薬剤防除を行きましょう。</li> <li>降雨が続く場合、灰色かび病、斑点病、茎枯病が発生しやすい状況となります。適切な枝整理を行い、薬剤防除を実施しましょう。</li> </ul>

## 【花 き】

作物名	今後の留意事項・対応技術	病害虫・生理障害対策
カーネーション	<p>3月上旬定植「ミモザ（スタンダード）」では8月10日現在で、草丈84.4 cmとなっています。</p> <p><b>【温度管理】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>遮光資材は、天候を考慮して掛け外ししましょう。また、気温が下がったら、9月中旬頃までには外します。ただし、日差しの強い日中は避け、曇天日や夕方に外します。</li> </ul> <p><b>【かん水管理】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>秋に2番花を採花する予定のほ場は、1番花の採花終了後、草勢を維持するため、適期にかん水と追肥を行いましょ。</li> </ul> <p><b>【その他管理】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>水あげ用バケツは十分に洗浄し、水の使い回しは避けましょ。</li> <li>降雨後の採花は前処理時間を延長し、STSの吸収量が不足しないようにしましょ。</li> <li>箱内の湿度が高まらないように、茎が濡れた状態での箱詰めは避けましょ。</li> </ul>	<p>病害虫・生理障害対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>オオタバコガ、ハダニ類、アザミウマ類の発生が見られます。ほ場を確認し防除を実施しましょ。また、同じ剤の連続使用は避け、系統の異なるものを散布しましょ。</li> </ul>  <p>オオタバコガの被害を受けた花弁</p>
作物名	今後の留意事項・対応技術	病害虫・生理障害対策
スターチス（シヌアータ）	<p>3月下旬定植「トールブルー」では8月10日現在で、草丈69.6 cmとなっています。</p> <p><b>【温度管理】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>遮光資材は、天候を考慮して掛け外ししましょう。また、気温が下がったら、9月中旬頃までには外します。ただし、日差しの強い日中は避け、曇天日や夕方に行いましょ。</li> </ul> <p><b>【かん水管理】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2番花立ち上げに向け、かん水と追肥を行いましょ。</li> </ul> <p><b>【その他管理】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>他の農作業と重なる時期ですが、適期採花を目指し採花遅れや、切り残しのないようにしましょ。</li> <li>選花場では水あげ用バケツに入れる花の本数を減らし、扇風機で空気の流れをつくる等、花が蒸れないようにしましょ。</li> <li>また、低温庫から出してすぐに箱詰めをすると、箱の中は蒸れやすくなります。箱詰め前に外気温にならず、紙をはさむなど蒸れ対策をしましょ。</li> </ul>	<p>病害虫・生理障害対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>降雨が多くなり、湿度が高まると、灰色かび病の発生が懸念されます。定期的に予防防除を行いましょ。</li> <li>また、病気の発生源とならないよう、1番花の採花が終了したほ場は、枯れた下葉を取り除きましょ。</li> <li>ハダニ類、アザミウマ類の発生が見られる場合は、防除を実施しましょ。</li> </ul>  <p>ブラシで発生した灰色かび病</p>

★農作業安全に気をつけましょ★